

著者 宮本奈緒子 (近畿大学附属小学校講師)

元公立中学校教諭。13年間大阪府で勤務後、私立仁川学院小学校講師を経て現職。小学校英語での経験を踏まえながら、中学校現場で本当に必要とされている教材をと奮闘中。
著書「E-NAVI」「E-NAVI2」「E-PILOT」「E-PLUS」



文字が読めないと外国語は必要以上に難しく感じてしまうものです。公立中学校で新任だった頃、英語が苦手な生徒の多くが単語を読む段階でつまずいてしまっているということに気づきました。そこで、まずは英語を読めるようにして自信をつけさせようと、高校時代にアメリカで知ったフォニックスを授業に取り入れるようになりました。フォニックスで英語がある程度読めるようになると、英語が苦手な生徒と英語との距離は一気に縮まります。授業中突然、「うわっ、オレ、英語読めるやんけー!」と叫んだ生徒の顔を、私は二十年以上経った今でも忘れることができません。

今ではすっかりお馴染みになりましたが、フォニックスは英語圏の子供が英語を読むために開発された「英語のつづりと発音の関係」をルール(法則)としてまとめたものです。アメリカの小学校では何年もかけて丁寧に教えられ、その効果も実証されています。しかし、もともと英語を母語とする子供達のためにつくられたものなので、日本でそのまま取り入れても効率良く学ぶことはできません。中学校でフォニックスを教える場合は、中学生にとっての**必要な量と指導する方法が重要な鍵**となります。

中学生がフォニックスを学ぶメリット

- ★単語を、見た瞬間に読めるようになる。(教科書を音読できるようになる。)
- ★知らない単語もだいたい読めるようになる。(英語の歌詞や表示などを読みたいという気持ちになれる。)
- ★単語を聞けば、音から類推してだいたいのつづりが書ける。(つづりを覚えるのが楽になる。辞書を引くのが苦でなくなる。)
- ★常に英語特有の音に注意が向くようになり、正しく発音しようとする意識が高まる。(リスニング力の向上にもつながる。)

中1の早い段階でこれらの力をつけておけば、その後の英語学習は生徒にとって随分と楽なものになります。そして、生徒全体の読み書きの能力が上げれば、結果として当然授業も進めやすくなります。入学直後の貴重な授業時間を使ってでもE-NAVIでフォニックスの指導をされる先生方が多いのは、このあたりのことを実感されているからではないでしょうか。

E-NAVIの特長

無理・無駄なく「使える」までをサポート

限られた授業時間の中でフォニックスを教えるには「中学生にとって何が必要か」「どのように習得させると最も効果的か」が重要です。E-NAVIを作る際には、中学校での指導経験を活かし、使用する単語や取り上げるルール、各々のルールを実際に活用できるようになるまでのプロセスに特にこだわりました。

例えば、フォニックスでは必ず登場する「サイレントe」ですが、E-NAVIでは5つの単語の共通点を見つけ、ルールを導くところから始めます。ルールを理解し、音と関連づけながら「読む」、正しいつづりを「選ぶ」、音からつづりを「類推する」そして「書く」練習へ。こうした過程を経てルールを実際に活用できるようになるのです。

E-NAVIはココ(プロセス)が違います!



最近、フォニックスのルールをいくつか取り上げてエッセンスのみを紹介する教材も見かけますが、私の経験上、多くの生徒は知識を与えるだけでは実際の読み書きにおいてルールを効果的に使えるようにはなりません。

また、ルールのみを公式のように教え込むと生徒が例外を受け入れにくくなってしまいますので注意が必要です。私は日頃から、フォニックスはたくさんの言葉を読む際の共通のルー

ルに過ぎず、このルールに従って言葉ができているわけではないので、例外は結構あるということの子供達に伝えるようにしています。

CHAPTER 2 フォニックス音読み表

文字をしっかりと見ながらCDを聞くことが大切。黒板用に秀学社HPからデータがダウンロードできます。